

2020 年度ドコモ市民活動団体助成事業

妊娠期からの親子・家族の愛着形成と
虐待予防のための家庭訪問活動
報告書

2021 年 9 月



NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ
「親子の強みを大切に」

目 次

理事長あいさつ	1
1. NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ 活動経過	2
1) 家庭訪問事業	
2) 家庭訪問員養成事業	
3) 研修会	
4) 多職種交流会	
2. 2020 年 4 月～2021 年 8 月の活動内容	5
1) リスクのある親子への家庭訪問による支援	
(1) 概要	
(2) 実施内容	
(3) 実施結果	
2) 家庭訪問員養成講座	
(1) 概要	
(2) 実施内容	
(3) 実施結果	
3) 研修会	
(1) 概要	
4) 多職種交流会	
(1) 概要	
(2) 実施内容	
(3) 実施結果	
5) 家庭訪問マニュアルの見なおし	
(1) ふるい分け項目の検討	
(2) 両親を理解するための背景調査項目の検討	
6) 「妊娠出産に関する制度と手続きについて」翻訳冊子の作成	
3. 今後の展望	26
参考資料	27

理事長あいさつ

NPO 法人として活動を始めて 2 年目になります。本活動の理念である、親子の愛着が形成されやすい妊娠期、出産直後からの家庭訪問を行い、親子・家族の長所に焦点を当てた支援を大切に、親子・家族の愛着を深め、親が自立し、地域で安心して子育てができるような支援を通して、虐待予防に繋がっています。

会員一同、やる気満々でいますが、コロナ禍の中、家庭訪問ができなくなり、リモートによるオンライン、Zoom、LINEなどを介しての支援となり、直接寄り添うことのできないもどかしさを感じています。

コロナ禍により、親や子どもには、自宅勤務、外出自粛、子どもの見守りができないなど、子どものおかれている環境が変わり、虐待が増えています。国の動向としては、SDGs のターゲットである「子どもに対する暴力撲滅（ターゲット 16.2）」の達成を目指すために、日本政府が 2030 年を目標として行動計画を 2021 年 8 月に策定した目標の達成に向けて、私たちは虐待予防への変革を求められていることを自覚し、行動に繋がっていきたいと思います。

本活動としては、常に前進、社会的役割と責任を活動に繋げ、地域の人々から愛される活動団体として成長していきたいと考えています。会員の研修や家庭訪問員の養成講座もオンライン研修に変更し、会員の質の担保を維持しています。活動として、1) 家庭訪問、2) 家庭訪問員養成講座、3) 講演会、研修会、4) 多職種連携のための交流会を行っています。報告書をまとめるに当たり、多くの方々のご理解とご協力、ご支援を頂き、このような成果を得られましたことに感謝申し上げます。

稚拙な報告書ではありますが、NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ（以下、HFH）メンバーが活動目的に沿って一丸となって、日々邁進してまいります。皆様にご拝読頂き、HFH の活動をご理解の上、一緒に活動して頂ける方を募っております。皆様の温かいご理解に支えられて、家庭訪問を必要としている親子・家族に寄り添い、自立した親子・家族が増えていくことを祈願して御挨拶とさせていただきます。



NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ
理事長 久保田君枝

1. NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ 活動経過

1) 家庭訪問事業

市民団体としての家庭訪問活動を、NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつとして継続し、2020 年 1 月～2 月まで訪問を実施した。3 月からは、新型コロナウイルス感染予防のために、家庭訪問を電話・メール・LINE などの方法で対象者に支援を行うこととした。

2020 年 4 月からは、緊急事態宣言の全国発令に伴い、新たな訪問対象者とコンタクトをとることが困難となり、家庭訪問活動の一時停止を余儀なくされ、継続事例の電話等による支援となった。8 月から定例会を再開することができ、感染予防策を徹底して家庭訪問による支援を再開した。

<家庭訪問ケース>

2019 年度：3 ケース

2020 年度：7 ケース

2021 年度（4～8 月）：6 ケース

2) 家庭訪問員養成事業

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言は解除されたが、再拡大の懸念もあったため、予防対策を十分に行って開催することとした。受講生の間隔を十分にとって実施するため、参加人数を制限し、県外講師の講座は日程調整したり、養成講座初の Zoom での講義を試みた。

<受講者数>

2020 年度：全講座受講修了者：2 名、部分受講者：5 名

3) 研修会

人数制限での講演会を計画していたが、新型コロナ感染の緊急事態宣言が発令され、その後も第 2 波、第 3 波の感染状況が続いたため、講演会の計画を、HFH 会員と関連職種のスキルアップのための研修会として開催した。

2020 年度

「なぜ小規模保育園を立ち上げたのか」

講師：坂鏡子氏

参加者数：10 名（HFH 会員と関連専門職者）

＜坂 鏡子＞

NPO 法人子育て支援を考える会 TOKOTOKO 理事長。保育士、社会福祉士。

愛知県の公立保育園での勤務と同時に子ども虐待防止活動に強い関心を寄せ、弁護士等と共に子どもシェルターの活動に関わる。思春期に問題が大きくなってしまった子どもたちと関わりながら、幼少期の愛着形成がいかに大切かを痛感し、予防的な対応を目指して平成 18 年に NPO 法人 TOKOTOKO を立ち上げた。保健師・保育士・社会福祉士・精神保健福祉士・児童養護施設職員・医師・弁護士らとネットワークを組んで、セミナー・調査研究・援助者のための研修などを行い、行政と協働して HFA の理念・方法を取入れた家庭訪問による子育て支援に関わり、スーパーバイザーとして実践を積み重ねている。

待機児童施策を受けて、小規模保育園「ひだまりの家」「さざなみの家」、多機能型児童発達支援事業所「そよかぜ」、を設立し、家庭的な雰囲気の中で個々に応じたきめ細やかな保育を行っている。

4) 多職種交流会

質の高い子育て支援をするためには、保健・医療・福祉・教育が連携していくことが重要である。2019 年度からネットワークづくりを目指して、交流会をスタートさせた。社会福祉との交流会を引き続き行い、新たに保健師との交流会を開催した。

2019 年度

第 1 回 多職種連携に向けての交流会

HEALTHY FAMILY はままつと社会福祉の立場から

参加者数：12 名

2020 年度

第 2 回 多職種連携に向けての交流会

HEALTHY FAMILY はままつと社会福祉の連携に向けて

参加者数：13 名

第 3 回 多職種連携に向けての交流会

HEALTHY FAMILY はままつと地域保健師の連携に向けて

参加者数：11 名

2021 年度

第 4 回 地域連携交流会

子どもと家族の生活を守る法律・仕組みを活用するために

参加者：11 名

第5回 地域連携交流会

浜松市における社会福祉活動の紹介

8月開催予定であったが、緊急事態宣言の対象地域となったため、9月に延期

第6回 地域連携交流会

社会福祉の相談機関との交流

8月開催予定であったが、緊急事態宣言の対象地域となったため、9月に延期

2020年度ドコモ市民活動助成事業

第5回 地域連携に向けての交流会



— 子どもと家庭を支えるNPOの役割 —

日時	9月16日（木） 18:30～20:00
場所	聖隷クリストファー大学 1706会議室 及びZoom 参加
参加者	HFH会員、社会福祉関係者 等

<目的>
NPO法人しずおか・子ども家庭プラットフォームの活動や運営方法から、HFHの活動の見直しを行い、連携の糸口を検討する。

スケジュール

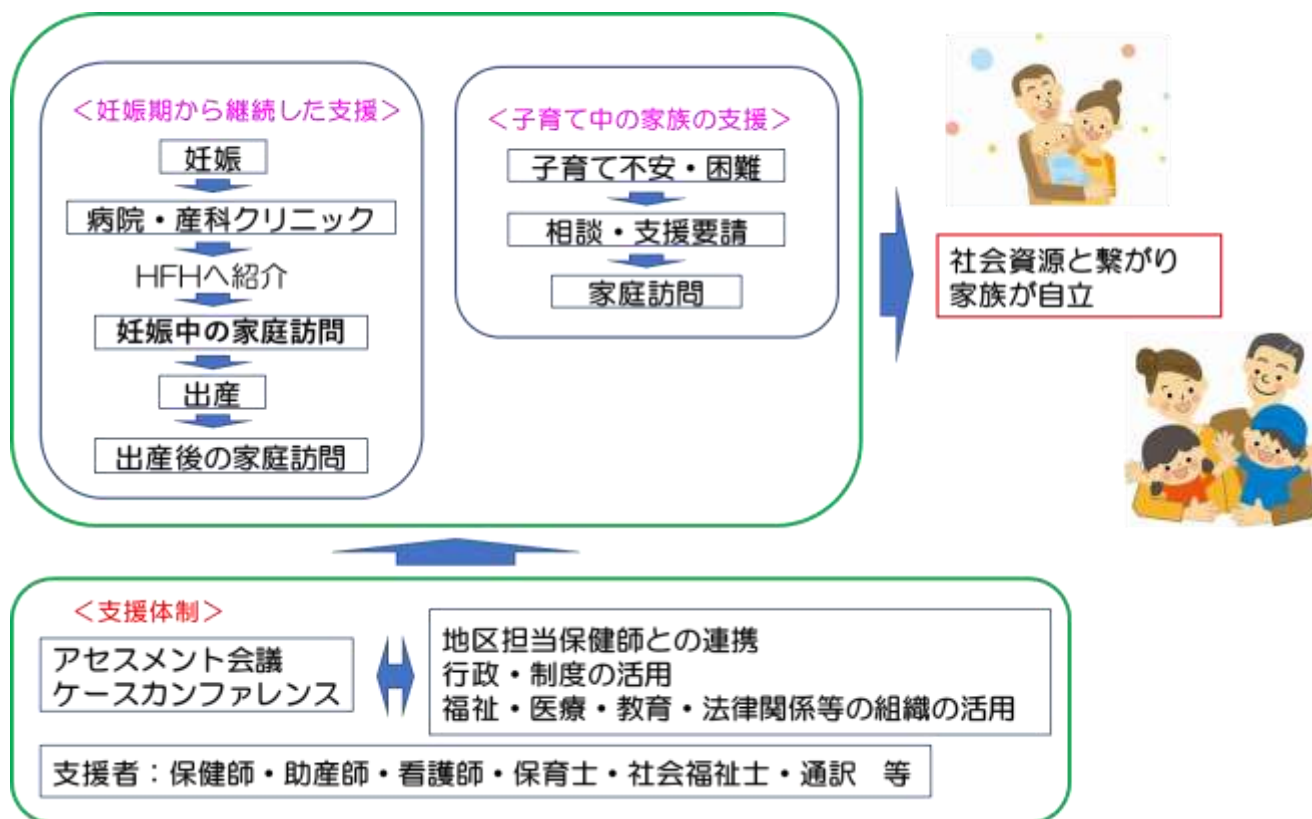
18:30	開会あいさつ、趣旨説明
35	「子どもと家庭を支えるNPOの役割」 聖隷クリストファー大学社会福祉学部教授 藤田 美枝子 先生
19:30	質疑応答 意見交換
50	まとめ
20:00	閉会、アンケート記載

2. 2020 年 4 月～2021 年 8 月の活動内容

1) リスクのある親子への家庭訪問による支援

(1) 概要

＜HFH 活動概要図＞



家庭訪問の対象は、病院からの紹介を受けて、「振り分け表」に基づいてアセスメント会議で決定し、定期妊婦健康診査時に産科外来にて「お願い文」を用いて趣旨を説明し、同意が得られたら「同意書」を交わして、妊娠期から産後 6 か月までの地域とのつながりができるまでを一区切りとして家庭訪問による支援を行ってきた。家庭のもつニーズの把握のための「両親の背景調査」を行い、家庭がもつ長所を生かした支援計画をたて、親子の愛着形成を主軸とし、親になる自覚が持てるように支援してきた。また、月 1 回のケースカンファレンスで、ケースの情報を共有し、支援方法の検討をして次の家庭訪問につなげ、質の高い支援を担保してきた。

2020 年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため全国に緊急事態宣言が発令されたり、感染拡大の第 2 波、第 3 波が発生し、対面による支援時は感染予防に慎重を期した。対象者の同意を得て家庭訪問を実施したり、随時電話やメールでの状況確認をした。また、病院で新たな訪問対象者とコンタクトをとることが困難となり、新規の家庭訪問の一時停止を余儀なくされた。警戒宣言の解除を受けて継続事例の家庭訪問支援を少しずつ広げた。

また、知人等からの要請に対応して、支援対象を子育て中の親子へと拡大した。親になることに前向きに取り組んだり、生活の安全・安定が図られるように、今後も乳幼児期の子育て支援に積極的に関わっていくことになった。

訪問対象者を決定する基準とする「振り分け表」の内容を、文献を根拠として見直しをして「スクリーニング項目」として活用を始めた。訪問対象者の背景を理解するための調査用紙の見直しは、継続して取り組んでいるところである。

(2) 実施内容

<家庭訪問実施ケース>

2020 年度 2020 年 4 月～2021 年 3 月

ケースNO	年代	訪問対象とした要因	支援の状況
1	30 代	精神不安定	継続
2	20 代	支援者なし、経済的問題、父母の生育歴	継続
3	30 代	支援者なし	継続
4	30 代	支援者なし、DV、経済的不安、夫外国籍	新規
5	10 代	若年・望まない妊娠、シングル	新規
6	20 代	育児不安・支援者なし・経済的不安	新規
7	10 代	若年、シングル、望まない妊娠	新規

2021 年度 2021 年 4 月～8 月

ケースNO	年代	訪問対象とした要因	支援の状況
1	20 代	支援者なし、経済的問題、父母の生育歴	継続
2	30 代	支援者なし、育児不安、DV、夫外国籍	継続
3	20 代	若年、望まない妊娠、シングル	継続
4	20 代	育児不安・支援者なし・経済的不安	継続
5	10 代	若年	継続
6	10 代	若年	新規

<ケースカンファレンス会議の開催>

- ・会場：聖隷クリストファー大学 会議室
- ・内容：月に 1 回家庭訪問員が集まって各々の支援状況を報告し、支援の方向性やサポート内容等を検討して次の訪問につなげた。新型コロナウイルスの感染状況をふまえて開催を検討し、実施時はソーシャルディスタンスを保って会議を行った。

・開催日・参加者

2020 年度 2020 年 4 月～2021 年 3 月

回	年月日	参加者
第 1 回	2020 年 6 月 26 日	訪問員 8 名、事務局 0 名
第 2 回	2020 年 8 月 28 日	訪問員 6 名、事務局 1 名
第 3 回	2020 年 9 月 25 日	訪問員 6 名、事務局 1 名
第 4 回	2020 年 10 月 23 日	訪問員 4 名、事務局 1 名
第 5 回	2020 年 11 月 27 日	訪問員 7 名、事務局 0 名
第 6 回	2020 年 12 月 18 日	訪問員 8 名、事務局 1 名
第 7 回	2021 年 1 月 22 日	訪問員 8 名、事務局 1 名
第 8 回	2021 年 2 月 26 日	訪問員 6 名、事務局 1 名
第 9 回	2021 年 3 月 26 日	訪問員 8 名、事務局 1 名

2021 年度 2021 年 4 月～8 月

回	年月日	参加者
第 1 回	2021 年 4 月 23 日	訪問員 9 名、事務局 1 名
第 2 回	2021 年 5 月 28 日	訪問員 8 名、事務局 1 名
第 3 回	2021 年 7 月 2 日	訪問員 5 名、事務局 0 名
第 4 回	2021 年 7 月 30 日	訪問員 5 名、事務局 1 名
第 5 回	2021 年 8 月 23 日	訪問員 5 名、事務局 1 名

(3) 実施結果

2020 年度の継続 3 事例は、2 事例が自立して子育てしていけると判断されて支援終了となった。1 事例は、自立へ向かっているが、家庭環境や日常生活等に課題が多く、就労に向けての取り組みも含めて継続して支援する。新規事例は、2 事例が妊娠期からの支援、2 事例は子育て中の親子であった。緊急事態宣言が解除され、静岡県は新型コロナウイルス感染が落ち着いていると判断される状況であったため、新規支援が再開されたが、支援を始めて間もない事例が多く、2021 年度へ支援が引き継がれた。

2021 年度、4～7 月は、2020 年度からの継続事例の支援を行った。5 事例のうち、1 事例は状況の変化が大きく、頻回の支援を行っている。妊娠中であった 1 事例は、出産後の支援が開始された。3 事例は継続支援、新規事例は若年の 1 事例であった。1 つの助産院と 2 つの産婦人科クリニックから連携の依頼があり、連携システムを確認した。今後、紹介事例に対応していく。

2) 家庭訪問員養成講座

(1) 概要

親子に寄り添い、親と子の愛着の絆を育んでいくことができるように HFH の理念と活動目的、家庭訪問スキルなど 10 講座を通して学び、妊娠・出産直後から定期的な家庭訪問を行う家庭訪問員を養成する。在日外国人のための通訳者にも、10 講座を修了することを義務付けている。2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大が危惧されていたため、受講者数を 1 講座 6 名に限定し、県外講師の講座は Zoom での講義とした。今年度は、受講を見合わせる状況もあり、3～5 名の受講者で講座を開催した。3・4 回の Zoom による講座には、北海道からの申し込みがあった。

<2020 年度家庭訪問員養成講座>

No	テーマ	講師
1	NPO 法人 HEALTHY FAMILY はまつの家庭訪問活動の方針と実際	久保田君枝
2	地域社会の資源をつなぐ	山名れい子
3	ニーズの把握の方法～両親調査・記録の書き方～	行田智子
4	家族の強みと課題の評価～支援計画の立て方～	行田智子
5	子どもの成長・発達と生活づくり	高橋由美子
6	子どもと心を通わせるふれあい遊び	高橋由美子
7	訪問の基本～ロールプレイ～	宇田公美子
8	訪問の実際～よくある質問と支援の内容～	木村里香
9	実践を支える 5 つの戦略Ⅰ～聞き方の戦略～	坂鏡子
10	実践を支える 6 つの戦略Ⅱ～問題解決の方法～	坂鏡子

- ・会 場：浜松市福祉交流センター（浜松市中区成子町 140-8）
- ・対 象：保健師、看護師、助産師、保育士、教育関係者、児童民生委員、行政職員、子育て中のお父さん、お母さん、子育てに関心のある方、学生など
- ・参加費：1 講座 1,000 円
- ・回 数：10 回

(2) 実施内容

第1回テーマ：「ヘルシー・スタート・アメリカを取り入れた訪問活動」

- ・日 時：2020年12月14日(月)19:00～21:00
- ・講 師：久保田君枝(聖隷クリストファー大学教授)
- ・参加者：5名

第1回は、コロナ禍での開催となり、Zoomと対面(人数制限)によるハイブリットでの講義形式で講座を開催した。

HEALTHY FAMILY はままつ(以下、HFH)の活動理念、目的をヘルシーファミリーアメリカ(以下、HFA)の活動理念を参考に、先進的な母子・家族支



援の取り組みについて説明した。アメリカ研修で学んだ、訪問者が家庭訪問時に心がけていることについて紹介した、訪問者は親の育児行動、愛着行動の良い点を褒め、認め、親の肯定的な育児を促進させ、親子・家族の愛着形成を促し、親の自立を促す支援を行っていた。その成果として、子ども虐待が減少し、子どもが健全に養育され、親子・家族の絆を深め、親の自立に繋げていた。

そこで、日本における虐待予防に、HFHは、浜松方式による家庭訪問活動を通して、ローリスクの親子が自立できる支援を行っている現状を説明し、家庭訪問の事例の紹介を通して、家庭訪問の意義などについて説明した。

さらに、HFHの会員の研修や訪問員の育成のための家庭訪問養成講座の説明を通して会員の募集や家庭訪問員を募り、一緒に活動しましょうと働きかけた。

第2回テーマ：「地域社会の資源をつなぐ」

- ・日 時：2020年11月14日(土)13:00～15:00
- ・講 師：山名れい子(保健師)
- ・参加者：5名

第2回では、前半に「地域社会の資源につなぐ」とはということかという基本的考え方を説明した。後半に養育支援訪問員として知っておくといわれる浜松市内の資源について、参加者と情報交換しながら紹介、確認した。参考資料として『はままつ子育てガイド』『浜松市の母子保健事業の取り組み』を紹介、配布した。HFHの愛着形成を主目

的としている訪問では、実際の訪問事例を紹介しながら、地域資源を知って適切に活用していくことで、訪問対象者により寄り添ったサポートができることを紹介した。また、参加者同士の経験や考え方を述べていただき、求められる援助内容について情報交換した。



第3回テーマ：「ニーズの把握の方法～両親調査・記録の書き方～」

第4回テーマ：「家族の強みと課題の評価～支援計画の立て方～」

- ・日 時：2020年11月28日（土）13：00～15：00、15：00～17：00
- ・講 師：行田智子(群馬県立県民健康科学大学看護学部教授)
- ・参加者：4名

第3・4回は、Zoomでの講義を行った。HFAの家庭訪問事業で行われているニーズの把握方法として、両親調査(ケンプ・アセスメント)について説明した。具体的には両親調査時の注意点、両親調査10項目の質問例、両親調査の報告書の記入と評価、評価に基づく家族の強みと弱み(課題)の査定の仕方の説明をした。講師が実践した支援の紹介をしながら、妊娠期の支援と育児期の支援のポイント、妊娠期から育児期までを継続して支援していくことの重要性を説明した。随時、質問を確認しながら進めた。

第5回テーマ：「成長発達と生活づくり」

第6回テーマ：「子どもと心を通わせるふれあい遊び」

- ・日 時：2020年12月15日（土）13：00～15：00、15：00～17：00
- ・講 師：高橋由美子(元岐阜聖徳大学看護学部看護学科講師、看護師)
- ・参加者：3名

第5・6回ではライフコースにおける乳幼児期の重要性を確認し、子どもの成長・発達の概要や子どもの健康な成長・発達の基盤となる予防接種、安全、日常生活の注意点等を

説明した。また、月齢ごとの特徴をふまえて支援のポイントを確認した。親子の愛着を促すあそびを紹介し、実際に乳児人形を用いて、対象者・支援者役となって、子守歌や絵本読み、ふれあい遊びの演習をした。身近な素材を使って、参加者一人ひとりが手作りのおもちゃを作成し、共有した。



第7回テーマ：「訪問の基本～ロールプレイ」

- ・日 時：2020年12月12日（土）13：00～15：00
- ・講 師：宇田公美子（ルツ助産院院長）
- ・参加者：3名

第7回では、グループワークとして、ケースを設定し、ロールプレイを行った。ケースが両親調査のふり分けで何点であるか、訪問員がどのような声かけを行っていくかなど、実際の訪問を想定しグループ別にロールプレイを行い、良い点や改善点を共有した。訪問のイメージをつくるために役立つ講座となった



第8回テーマ：「訪問の実際～よくある質問と支援の内容」

- ・日 時：2020年12月12日（土）15：00～17：00
- ・講 師：木村里香(保健師)
- ・参加者：3名

第8回では、育児支援の視点として①親子関係を観る視点。②子どもの健康な成長と発育。③母親の精神状態の把握。④夫、親族との関係の視点よりそれぞれの具体的な見方の説明をした。親のイライラの募る原因とし考えられることを各々意見を出してもらいながら以下にまとめた。①乳幼児を知らないまま親になっている。②自己実現という欲求と関係③夫婦関係から整理し確認した。家族として観ていく、長所を生かした援助を事例を通し、実際に訪問した時の支援を皆で考えた。最後に訪問にあたり、ひとりで抱え込まないこと、他の訪問員に相談すること、地区担当保健師と連携を取り合うことを伝えた。



第9回テーマ：「実践を支える5つの戦略Ⅰ～聞き方の戦略～」

第10回テーマ：「実践を支える5つの戦略Ⅱ～問題解決の方法～家庭」

- ・日 時：2021年3月13日（土）13：00～15：00、15：00～17：00
- ・講 師：坂鏡子(NPO法人子育て支援を考える会 TOKOTOKO 理事長)
- ・参加者：第9回3名、第10回1名

今年度は、対面での講義に加えて、1名がZoomでの視聴をした。第9・10回では家庭訪問の実践を支える5つの戦略として、①ストレスを理解し寄り添う、②肯定的な事柄を強調する、③一緒に探索し思いをめぐらす、④一般化する(正常化する)、⑤問題の検討を挙げ、聞き方の戦略としては、①一般化(正常化)、②明確化、③オープンな質問、④ワーカーとしての心得を説明した。対面での受講生が講義内容をふまえてロールプレイを行い、理解を深めた。問題の検討の3段階としては、第1段階：気がかりな子どもの行動や

親の意見や考えをまとめる。第2段階：その意見は一般的に信じられてきたもの、一般的によくあることだと伝える。(一般化・正常化)。第3段階：一緒に思いをめぐらせ、親の知識や解決方法を広げる情報を伝えるであるという説明をした。最後に、日頃の活動にお



(3) 実施結果

1. 講座受講者：34 名（延べ人数）

2. 家庭訪問員の養成講座のアンケート結果（回収 31 名：91.2%）

問 1 講座の内容全般について（4 択）

内容	回答者
1) とても満足	48.5 (%)
2) 満足	48.5 (%)
3) やや不満足	3.2 (%)
4) 不満足	0 (%)

問 2 どんな点が良かったか(複数回答可)

内容	回答者
1) 役立つ情報が得られた	74.2 (%)
2) 日頃の生活や活動に役立った	71.0 (%)
3) スキルアップにつながった	38.7 (%)
4) 他の参加者との交流・情報交換が図られた	29.0 (%)
5) 抱えていた問題・不安の解消につながった	3.2 (%)
6) その他良かった点を具体的に教えてください	25.8 (%)

問 3 その他の良かった点の内容

第 1 回	・ヘルシーファミリーはままつの活動が分かり、とても良かったです。 ・アメリカでの様子がうかがえたことが良かったです。 ・活動の内容、考え方が具体的にわかりよかった。
第 2 回	・見えているものが氷山の一角だということを意識していきたいです。
第 3 回	該当なし
第 4 回	該当なし
第 5 回	・赤ちゃんのことがとてもよくわかりました（脳の発達についてなど）
第 6 回	・絵本や子守歌のことが良かったです。
第 7 回	・具体的な訪問時のことが学べた
第 8 回	・事例をもとにイメージがわいた。
第 9 回	該当なし
第 10 回	該当なし

問 4 どんな点が良くなかったか(複数回答可)

内容	回答者
1) 抱えていた問題・不安の解消につながらなかった	3.2 (%)

問 5 意見

第 1 回	・HFA がどのように活動しているのか分かってよかったです。 ・愛情が人間をつくるのに重要なんだなーと思いました。勉強になりました。 ・HFH さんの活動の理念や方法が分かって、前回まで受講させていただいたこととつながりました。
第 2 回	・知らない情報もあり、勉強になりました。
第 3 回	該当なし
第 4 回	該当なし
第 5 回	・とても良い情報が得られました。お母さん、赤ちゃんの気持ちを考えて支援することが大切だと思いました。 ・改めて子どもの育ちについて知ることができ、仕事に生かしていきたいと思いました。
第 6 回	・実際の支援に役立つ内容でした。 ・子守唄や絵本、手作りおもちゃは他の参加者の方のアイデアをみて、面白い！かわいい！と新たな発見ができ楽しかったです。 ・おもちゃ作り楽しいのでお母さんたちにも楽しんでもらえそうです。勉強になりました。
第 7 回	・実際にロールプレイをして感覚がつかめたような気持ちがしました。 ・家庭訪問に興味がわきました。
第 8 回	・とても勉強になりました。 ・事例を見て考えるということをして、難しそうなお仕事で、でも支援を受ける方にとってはとても支えになるお仕事なんだと感じました。
第 9 回	・今の自分の仕事にも置き換えて考えることができる内容だった。演習では、肯定的な考え方・その伝え方がとても勉強になった。
第 10 回	該当なし

3) 研修会

(1) 概要

質の高いサービスの提供が求められるため、年 1 回外部講師を招いての講演会・研修会を実施している。2020 年度当初計画では、新型コロナ感染予防のため規模を縮小して 50 名の募集で講演会を予定していた。しかし、感染拡大状況が持続したため、さらに少人数で HFH 会員と関連専門職者を対象とした研修会という形式に変更して実施した。



(2) 実施内容

- ・日 時：2021 年 3 月 13 日（土）18：00～20：00
- ・講 師：坂鏡子先生（NPO 法人子育て支援を考える会 TOKOTOKO 理事長）
- ・テーマ：「なぜ小規模保育所を立ち上げたのか」
- ・会 場：聖隷クリストファー大学（浜松市北区三方原町 3453）

(3) 実施結果

1. 参加者：HFH 会員 6 名、関連専門職者 4 名

2. 研修会アンケート結果（回答 8 名）

問 1 講義は有意義だったか（4 択）

内容	回答者
1) とても有意義	75 (%)
2) 有意義	25 (%)
3) やや有意義	0 (%)
4) 無意義	0 (%)

<理由>

- 先生の保育の理念やプログラムを学ぶことができ、とても勉強になった。
- 子育て支援の考え方を再度見つめ直すことができた。
- 愛着についての確認ができた。
親と子の心を結ぶプログラム To Heart を学んでみたいと思った。
- 確立するまでのプロセスと背景となる理念がよく分かった。
- 先生がやってこられた内容を聞くことができ勉強になった。
- 具体的なニーズに対応して、実践仲間とのネットワークや行政とのつながりを土台として活動が成り立っていることがわかった。”

問2 話し合いは有意義だったか（4 択）

内容	回答者
1) とても有意義	75 (%)
2) 有意義	25 (%)
3) やや有意義	0 (%)
4) 無意義	0 (%)

<理由>

- 具体的な内容が聞けた。
- 市民団体としての動き方が参考になった。
- HFH が事業を拡大していけない問題点がよく分かった。
- システム図についての理解が深められた。
- それぞれの立場の意見が聞けた。
- 行政と市民団体との関係の難しさ、浜松の現状が分かり、HFH の方が行政から委託を受けて養育支援訪問ができればよいなあと感じた。
- 行政との連携の難しさ、浜松市で行っている活動の工夫や課題を知ることができた。

4) 多職種交流会

(1) 概要

2019 年度に実施した第 1 回の社会福祉領域との交流会では、保健・医療と社会福祉双方の立場を知るよい機会となり、今後、必要な時に連携できる関係をつくっていくことの必要性が確認された。そこで、2020 年度は、第 2 回社会福祉との交流会を開催し、HFH 会員の支援事例を用いてグループに分かれてディスカッションした。第 3 回は、地域保健師との連携に向けて浜松市の子育て支援の現状を知り意見交換した。

2021 年度は、地域の様々な組織や活動団体とつながって親子・家族を支援する必要性から、交流の対象を拡大して弁護士との交流会を第 4 回として開催した。子どもと家族の生活に関連する法律の基礎知識を確認し、連携のネットワークを広げた。また、社会福祉との連携を更に具体化するための交流会を計画した。

(2) 実施内容

<第 2 回多職種交流会>

テーマ：HFH と社会福祉の連携に向けて

日 時：2020 年 8 月 20 日（木）19:00～20:30

目 的：多職種が連携して子育てを支援していくために、看護の立場と社会福祉の立場がどのように連携することができるか討議する。

場 所：聖隷クリストファー大学

内 容：①事例紹介

②グループに分かれてディスカッション

③発表、意見交換



<第 3 回多職種交流会>

テーマ：HFH と地域保健師の連携に向けて

日 時：2020 年 10 月 14 日（木）19:00～20:50

目 的：多職種が連携して子育てを支援していくために、浜松市における子育て世代包括支援センターの現状を理解し、HFH の家庭訪問活動がどのように連携することができる

か話し合う。

場 所：聖隷クリストファー大学

内 容：①講義「浜松市における子育て世代包括支援センターの現状」

浜松市健康増進課 仲谷保健師

②質疑応答、意見交換



＜第4回多職種交流会＞

テーマ：子どもと家族の生活を守る法律・仕組みを活用するために

日 時：2021年5月25日（火）18:30～20:00

目 的：子育て支援を必要としている対象者は、ひとり親家庭・経済的問題・言語理解の困難など様々な問題を抱えている。法律・制度を活用して、少しでも暮らしやすくなるように支援をしていくための方法を考える機会とする。

場 所：聖隷クリストファー大学

内 容：①講義「家庭訪問の中で法的支援の必要性を感じた場合の対応について」

橋本友紀子弁護士（小原総合法律事務所）

②質疑応答、意見交換



(3) 実施結果

<第2回多職種交流会>

1. 参加者：社会福祉関係者 4名、HFH 会員 9名

2. 交流会アンケート結果（回答 11 名）

問1 講義は有意義だったか（4 択）

とても有意義 11 名（100%）

<理由>

- ・事例を突き詰めていくことで、見えてくるものがあったと思う。幼少期に関わる大切さを改めて感じる。
- ・答えは出ないが、ケースを通していろんな視点からディスカッションできて面白かった。
- ・地域で生活しているケースの生々しい様子が聞けて良かった。引きこもり、若者支援の立場からすれば、将来がとても心配になるが、こういう家庭をどう発見し、支援をつなげていくのかという予防のことがとても重要だなということを、多種多様な連携、つながりの必要性を改めて感じている。
- ・社会福祉、精神保健、保健師、助産師など多職種の方々と話すことで、事例の様相が明らかになり、目的である連携の糸口が見えてきたことは有意義だった。
- ・医療者として家族をとらえるという視点をもっていたつもりであったが、全くできていなかった。心理士が分析していたことを聞いて、とても学びになった。支援をしていく中で、うまくいかないと落ち込むと思っていたが、「運」もあるという意見を聞いて、それくらいの気持ちで支援していくメンタルが必要であると思った。
- ・違う角度から問題を見ることができたのでよかった。
- ・ケースの家族問題と精神の面から分かりやすく話してくれたので勉強になった。
- ・お金に関わる問題について、どうしていいのか分からないことがあったが、ヒントをもらった。
- ・家族、夫婦の力をみていくことの重要性を教えて頂いた。
- ・対象者に必要なものを自分たちが開発していく、意図的にネットワークを作っていくことが大切だと学んだ。
- ・事例を基に具体的に色々な情報、意見を聞くことができ、考えることができた。問題が生じないように予防できることが何よりだが、多様な背景のもとで支援を必要としている人たちの存在に気づき、忍耐強く寄り添う人や組織があることが大切だと思う。
- ・ケース検討で多職種連携の必要性、広さ等を学ぶことができ、ネットワークをつくって

いく、課題の把握を多職種で共有していくこと 等、具体的に理解できた。

- ・ケース検討の中で、自分では考えられなかった視点や支援方法、人材（職種）を知ることができ、アセスメントの幅が広がったと思う。
- ・色々な側面から視ることの大切さを改めて感じた。
- ・これからの訪問に役立てたいと思うが、できるかなあと不安（むずかしい）

＜第3回多職種交流会＞

1. 参加者：HFH 会員 9 名、他 1 名（助産師）

2. 交流会アンケート結果（回答 8 名）

問1 講義は有意義だったか（4 択）

とても有意義 6 名

有意義 2 名

＜理由＞

- ・浜松健康づくり課に子育て世代包括支援センターの存在を今まで知らず。今回、どんな役割を担っているのか知ることができた。
- ・行政での母子支援の流れがすごく分かりやすく知ることができた。
- ・行政の考え方がよくわかりました。
- ・あやふやだった所の確認ができたり、あらためて再確認できよかったです。事例の紹介が分かりやすかったです。
- ・子育て世代包括支援センターは、浜松市の場合はずでにその内容の活動は実施しており、健康づくり課の活動のことを言うことがわかった。
- ・市の動きを理解することができた。
- ・子育て世代包括支援センターの役割及び実際がよくわかりました。

問2 話し合いは有意義だったか（4 択）

とても有意義 3 名

有意義 5 名

＜理由＞

- ・行政の手の届かないところを役割として活動という目的が自分の中で課題となった。
- ・自分たちの活動に足りていない部分が分かったので、今後に生かしていけると思った。
- ・情報共有が大切だということがよくわかった。
- ・行政の保健師と連携をとってケースにかかわっていきたいと思います。
- ・産後ケアはハイリスクアプローチであり、ポピュレーションアプローチではないなど、保

健師さんは両方のアプローチを実施していることが分かった。

- ・具体的な実情がわかりました。

＜第4回多職種交流会＞

1. 参加者：HFH 会員 9 名、他 2 名（看護師、社会福祉士）

2. 交流会アンケート結果（回答 10 名）

問1 講義は有意義だったか（4 択）

とても有意義 8 名

有意義 2 名

＜理由＞

- ・初めてこのような法的な話を聞いて、わかりやすく興味深かった。
- ・生活苦は借金の有無で相談窓口が違ふとは思っていなかった。問題が複雑な人が多いので、先生が話されていたように、いろいろな所に相談していくことが分かった。
- ・法律はなかなかふれることがなかったので、興味深かった。
- ・普段聞く機会のないお話で、分かりやすくお話ししてくださり勉強になった。
- ・新しい知識を知ることができてよかった。
- ・様々なケースに共通して活かせる知識を学ぶことができた。
- ・いつもいきなり困難なケースは飛び込んでくる。以前 DV や借金のケースを抱えていた。相談すればよかったと思った。今後は、法の支援も視野に入れてケアに当たります。
- ・具体的な対策を聞いた。
- ・出会いそうな問題に関する基本的なことが確認できてよかった。
- ・出会った事例へのアドバイスを頂けるようなつながりをもっていきたい。

問2 話し合いは有意義だったか（4 択）

とても有意義 9 名

有意義 1 名

＜理由＞

- ・具体的な事例からの説明も聞けてわかりやすかった。
- ・現在に事例なので、イメージがつきやすくわかりやすかった。
- ・個別事例について聞くことによりイメージがついてよかった。
- ・事例に対してのお話も分かりやすく、これから活かしていきたいと思った。
- ・新しい情報をたくさん得ることができた。
- ・アドバイスする時に有効な知識を得られた。

5) 家庭訪問マニュアルの見直し

(1) ふるい分け項目の検討

訪問対象を決定するために活用してきた 15 のふるいわけ項目を、文献を根拠として見直し検討してきた。最終決定に向けて討議を進めているところである。

＜話し合いの結果整理したスクリーニング項目＞

2020 年 9 月作成

項目		No	スクリーニング項目
非 変 動 環 境	年齢	1	若年
	国籍	2	日本語を母語としない家族
	児の出生状況	3	多胎
	児の出生状況	4	胎児の疾患、障害
	妊娠・分娩状況	5	多産
	妊娠・分娩状況	6	死産、反復又は習慣流産の既往
	妊娠・分娩状況	7	人工妊娠中絶の既往
	妊娠・分娩状況	8	初回健診が妊娠 16 週以降
	妊娠・分娩状況	9	望まない妊娠
	養育者の成育歴	10	虐待歴・被虐待歴がある
養 育 者 の 状 況	健康状態等	11	既往歴 (精神疾患、身体障害、その他)
	健康状態等	12	依存症が現在又は過去にある (アルコール、薬物、煙草、その他)
養 育 環 境	家族形態の変化	13	未婚
	家族形態の変化	14	ステップファミリー
	夫婦・家族関係	15	DV を受けている
	経済状況・経済基盤	16	経済的不安がある
	地域社会との関係	17	支援者がいない
	地域社会との関係	18	育児不安がある

*6～16 の項目にチェックが入った方は、関わりが開始後に、その項目内容について詳しく確認する必要がある項目になる。

*項目 9 の望まない妊娠について

文献：中井章人ら（2017 年）メンタルヘルスに問題がある妊産婦の頻度と社会的背景に関する研究

・望まない妊娠の背景には、社会的要因と精神的要因に集約される。

- 社会的要因：本人とそのパートナーや家族の関係、婚姻状態、年齢、経済状態はじめ、子育てを取り巻く社会的環境など
- 精神的要因：軽度の抑うつ状態から高度の精神疾患
- 望まない妊娠そのものが精神障害のリスク因子になるとの指摘もある。
- 社会的背景で多かった項目：「未婚」「貧困等生活面の問題がある」が多い。「両親が離婚している」「実母との折り合いが悪い」「夫との葛藤がある」など、家族関係に関する問題を有する者が多い。

（２）両親を理解するための背景調査項目の検討

現在 2 項目が文献を根拠に抽出されている。引き続き検討を重ねていく。

6)「妊娠出産に関する制度と手続きについて」翻訳冊子の作成

多国籍の妊婦や子育て中の親子を対象に、活用できる制度や手続き方法などを案内する翻訳冊子の作成に取り組んだ。掲載内容の検討・情報収集の後、外国籍の当事者に意見を聞いて原案を作成し、スペイン語訳と英語訳につなげた。今後、3人の外国籍の母親に体験をふまえて内容を確認してもらい、評価・修正していく。そして、支援対象者に活用していくとともに、HPから情報発信することを検討していく。

<翻訳冊子目次>

1. 妊娠に関する制度、必要な手続き

- 1) 妊娠届出書
- 2) 母子健康手帳の交付

2. 出産時の手続き

- 1) 入院時に必要な手続き
- 2) 出生届
- 3) 出産育児一時金
- 4) 児童手当
- 5) 出生連絡票

3. 出産後や子育てに関連する制度、必要な手続き

- 1) 乳幼児医療費助成
- 2) 乳幼児医療費受給者証の内容変更・再交付
- 3) 払い戻しによる助成（乳幼児医療費助成償還払い申請）
- 4) 子どもの健康診査
- 5) 予防接種

4. 浜松市の子育て支援・相談窓口の紹介

- 1) 子育て支援広場
- 2) ひとり親家庭を支援する制度
児童扶養手当、浜松市ひとり親家庭等自立支援手当、母子家庭等医療費助成、母子家庭等自立支援給付金等
- 3) 障害のある子どもを支援する制度
未熟児養育医療、自立支援医療（育成医療）、重度心身障害者医療費助成制度、特別児童扶養手当、障害児福祉手当、浜松市重度心身障害児扶養手当、障がいのある子どもや家族が利用できる施設
- 4) 救急時の対応
夜間救急室、静岡こども救急電話、救急車を呼ぶ

3. 今後の展望

HFH は、支援を必要とする人びと・家族から求められる活動団体として常に前進をモットーに 3 年目を迎えています。

新型コロナウイルス感染の蔓延の中、妊婦・産婦・褥婦・子どもたち、家族がいろいろな面での自粛を求められ、窮屈な思いの中で生活しています。この時こそ、支援を必要としている対象に会員の知恵を結集して応えていく役割を感じています。

経験豊富な保健医療福祉の専門職者が集まった HFH は、対象の一人ひとりを尊重して、支援を必要とする人びと・家族から求められるニーズに応えるために、社会状況の変化に対応しながら、以下の取り組みを実践していきます。

- ①地域の産婦人科との連携を広げ、妊娠期からの家庭訪問によって親子・家族の愛着形成を促す支援とともに、支援を必要としている子育て中の親子・家族への家庭訪問による支援を実施していく。
- ②新型コロナウイルス感染の状況など、社会情勢をふまえて、リモートによる家庭訪問、動画の配信など、臨機応変に対象のニーズに応じた活動方法を検討していく。
- ③地域で活躍している活動団体との交流会やネットワークを拡大し、対象者のニーズに対応できるシステムづくりを検討していく。
- ④質の高い家庭訪問を継続していくために、家庭訪問員養成講座を引き続き開催する。受講後、HFH の会員となって、ともに活動をしていく仲間を増やしていく。
- ⑤HFH 活動のピーアールや子育て支援に関する知識を発信する目的で、Web による受講システムの検討やホームページからの情報発信をしていく。
- ⑥会員の研修会、講演、ケースカンファレンスを通して、会員の質の担保に繋げる。

<参考資料>

「市民団体 HEALTHY FAMILY はままつ」時代の活動経緯

(1) 家庭訪問事業

<家庭訪問ケース>

2013 年度：家庭訪問に向けて書類・医療機関の協力体制作り等の準備

2014 年度：3 ケース

2015 年度：17 ケース

2016 年度：15 ケース

2017 年度：11 ケース

2018 年度：12 ケース

2019 年度：13 ケース

(2) 家庭訪問員養成事業

<受講者数>

年度	全講座受講修了者	部分受講者
2013	10 名	1 名
2014	4 名	6 名
2015	5 名	10 名
2016	13 名	8 名
2017	10 名	13 名
2018	11 名	8 名
2019	2 名	7 名

(3) 研修会・講演会

2013 年度

①「地域社会の中での子育て～愛着と脳の発達～」

講師：ヘネシー澄子先生

参加者数：78 名

②「赤ちゃんの脳を発達させる遊びとそれを教えるスキル」

講師：キャロル・フリーマン氏・ヘネシー澄子先生

参加者数：19 名



左：キャロル・フリーマン先生・右：ヘネシー澄子先生

③「健康な家族アメリカ運動の長所に焦点を当てた養育支援訪問」

講師：キャロル・フリーマン氏・ヘネシー澄子先生

参加者数：16 名

④「家庭訪問の実際」

講師：キャロル・フリーマン氏・ヘネシー澄子先生

参加者数：16 名

2014 年度

「脳と肉体の正常な成長の基礎となる保護者との愛着の絆」

講師：ヘネシー澄子先生

参加者数：64

2015 年度

「親子の愛着障害の修復と親子の絆」

講師：ヘネシー澄子先生

参加者数：浜松市会場 156 人、掛川市会場 71 人、湖西市会場 14 人

2016 年度

「親子の愛着障害の修復と親子の絆」

講師：ヘネシー澄子先生

参加者数：浜松市会場 115 人、掛川市会場 44 人、湖西市会場 12 人

2017 年度

①「親子の愛着障害の修復と親子の絆」

講師：ヘネシー澄子先生

参加者数：74 名

②「親子の絆を深めるスキルと関わりにくい子への対応」

講師：ヘネシー澄子先生

参加者数：30 名

2018 年度

「乳幼児（0 歳から 3 歳まで）の脳の発達を促す遊び」

講師：キャロル・フリーマン氏

参加者数：52 名

2019 年度

新型コロナウイルス感染予防のため研修会、講演の開催を中止した。

＜ヘネシー澄子＞

クロスフォードソーシャルワーク社所長、東京福祉大学名誉教授

東京外国語大学仏語科卒業後、ベルギーとアメリカに留学。フォードム大学で社会福祉学士号、デンバー大学で博士号を取得、ニューヨーク大学社会福祉大学助教授を経て、1974年コロラド州に移住。インドシナ難民の為に施設を設立、同所長として治療と共に人材の育成に尽力。2000年に引退し、東京福祉大学に実習担当教授として赴任。2005年に東京福祉大学名誉教授を務め、多数の著書を執筆している。

日本各地で公演や研修会などの活動を行っており、現在はコロラド州オーロラ市に在住し、児童福祉に関わる会社を立ち上げ、児童福祉に携わる人への研修を日米両国で行っている。

アメリカでの研修会

1回目 2012年7月フロリダ州セント・ピーターズバーグ州

「健康な家族アメリカ運動」

「長所に焦点を当てた子育て家庭支援訪問」技術研修

2回目 2013年7月コロラド州エバークグリーン市

「修復的愛着障害療法技術研修」

3回目 2014年3月ハワイ州ハワイ島コナ市

「児童虐待防止に関わるスタッフ向け研修」

4回目 2016年9月コロラド州・エバークグリーン市

{スーパーヴィジョン 看護師・助産師と家族パートナーシップ}

「児童虐待防止に関わるスタッフ向けの脳を働かせる」

4回目 2016年9月コロラド州エバークグリーン市

「スーパーヴィジョン 看護師・助産師と家族パートナーシップ」

＜キャロル・フリーマン＞

Healthy Families Pinellas Maternal and Child Healthy, Florida Department of Health in Pinellas County Resource Specialist

南フロリダ大学にて地域保健教育で学士号を取得、ピネラス郡教育員会で幼稚園教諭の指導に取組む。2006年から「健康な家族フロリダ」のプログラムの中で、家庭訪問員として妊娠期と初産の母親への支援にあたる。2008年ヒューマンサービスカウンセラーの主任となり、家庭訪問員の訓練を行い、困難を抱える家庭へのケースマネジメントに取組む。2007年に長年の活動を評価され、ピネラス郡児童保険委員会や教育委員会などから表彰される。日本の早期介入プログラムに興味を持つ専門家達と、資生堂海外研修団の訪問時に指導を行った。2012年ハワイで開かれた早期介入プログラムの指導者たちへの講習会で、玩具作りから、乳幼児の脳を刺激する遊び方、両親の指導法を伝えた。

理事長挨拶

子育て世代包括支援センターの設置や産後ケア事業など母子保健の充実が図られつつありますが、現状ではまだまだ支援が必要とされています。



私たちの活動は、2013年に任意団体として始めました。アメリカで親子の愛着を深め、虐待予防の成功を収めた家庭訪問プログラムを学び、日本で支援を必要としている親子・家族に寄り添い、親が自立して安心して子育てができるよう支援をしています。活動の仲間は行政で働いていた保健師や現役助産師、看護教育に携わる者などの力を集結し、活動に繋がっています。子育ての現状に何か役に立ちたいという思いを持った専門職を中心としたメンバーによる活動です。地道な訪問活動を通して、親子・家族が自立していく手助けを実感しています。

2020年1月にNPO法人にすることができました。諸活動団体と連携を取りつつ、親子・家族が安心して子育てができるように、きめ細かな支援をしていきたいと私たちは考えています。

NPO法人HEALTHY FAMILY はままつ

理事長 久保田君枝

入会のご案内

本会の活動に賛同し妊娠期からの家庭訪問による子育て支援をしていこうという方なら、どなたでも入会できます。

- | |
|------------------------|
| 1) 正会員:個人会員一口 3,000 円 |
| 団体会員一口 10,000 円 |
| 2) 賛助会員:個人会員一口 3,000 円 |
| 団体会員一口 10,000 円 |

入会については、理事長又は事務局までお問い合わせ下さい。

ご支援のお願い

当法人の運営資金は、すべて会費、寄付と助成金によって成り立っています。この事業にご理解を賜り、ご支援いただけると幸いです。

ご寄付の振込先

＜ゆうちょ銀行＞
口座番号: 12350-56587941
口座名義: NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ
＜浜松いわた信用金庫 泉町支店＞
口座番号: 普通 2073804
口座名義: NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ

理事長の連絡先

聖隷クリスティー大学 助産学専攻科
研究室: 053-439-1454 携帯: 090-4790-7719
E-mail: kmie-k@seirei.ac.jp

事務局

静岡県浜松市中区泉三丁目1-38 石川ビル2階
電話: 053-488-4973 FAX: 053-488-4974
E-mail: healthy.family.hamamatsu@gmail.com



NPO法人HEALTHY FAMILY はままつ

「親子の強みを大切に」



①ウェブサイト

NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつの活動

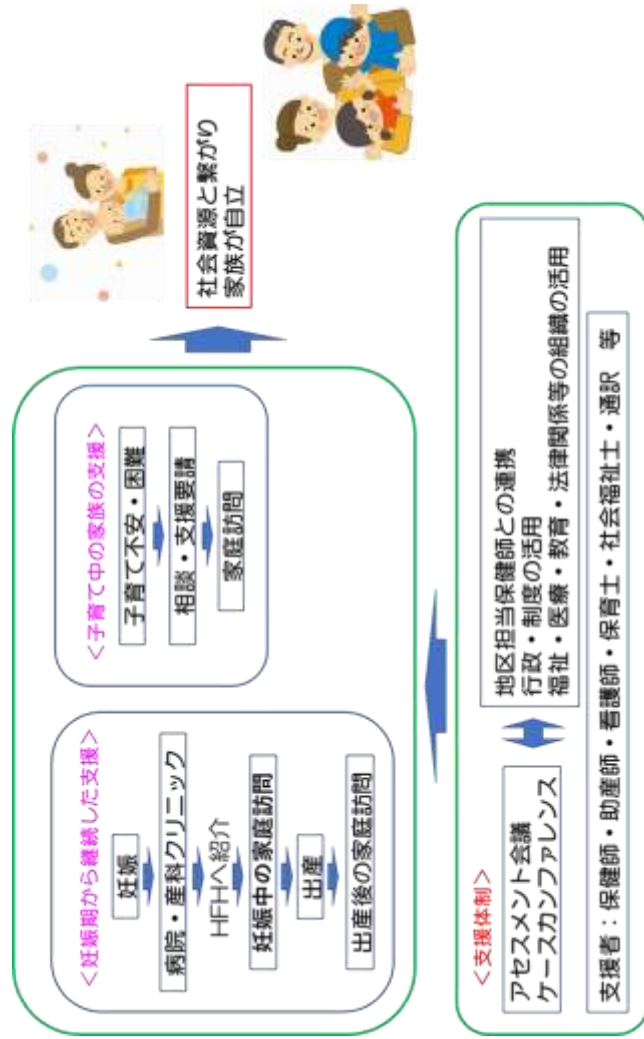
＜活動目的＞

親子の愛着が形成されやすい妊娠期・出産直後から定期的な家庭訪問を行い、親子・家族の長所に焦点を当てた支援を大切に、親子・家族の愛着を深め、親が自立し、地域で安心して子育てができるように支援を通して子どもへの虐待を予防することを目的として活動しています。

＜活動の概要＞

医療施設などと連携を取り、支援を必要とする妊婦に妊娠期から関わり、出産直後から社会の中で自立して子育てができるように生活の場である家庭を訪問して支援をします。また、子育て中の家族の支援も大切に行っています。

質の高いサービスを提供するために家庭訪問員の養成講座を開催して、受講修了者が家庭訪問を行います。そして、定期的にケースカンファレンスを行って支援方法の検討を積み重ねていきます。また、講師を招いて研修会を行います。また、講師を招いて研修会を行います。



家庭訪問員の養成講座

10回シリーズで、訪問活動の理念から、具体的な方法を学びます。対象者は、保健・医療・福祉・教育などの専門職者や子育て支援に関わる人たちです。

研修会

家庭訪問による子育て支援のスキルアップのために、講師を招いて年1回開催しています。子育てに関心のある人たちがともに学びます。

2020 年度 NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ 家庭訪問員の養成講座

in
浜松

核家族化が進む現在、家庭の状況も大きく変化しています。子どもと一日中向かい合い、孤立感を抱えてしまったり、我が子がかわいいと思いながらも、具体的な関わり方がわからず葛藤している若い親も少なくありません。地域の子育て支援拠点は少しずつ整備されつつありますが、子育てに悩む親をどのように受け止めたらよいのか、支援者自身も葛藤していると思います。本講座では、ヘルシー・ファミリー・アメリカ(HFA)のプログラムに学び、妊娠・出産直後から、定期的な家庭訪問を行う家庭訪問員を養成します。親にそっと寄り添い、親と子の愛着の絆を育んでいくことができる支援方法を習得します。

講座 No	テーマ	講師	開催日	時間
第 1 回	NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつの家庭訪問活動の方針と実際	久保田君枝	11 月 14 日(土)	13:00~15:00
第 2 回	地域社会の資源につなぐ	山名れい子	11 月 14 日(土)	15:00~17:00
第 3 回	ニーズの把握の方法～両親調査・記録の書き方～	行田 智子	11 月 28 日(土)	13:00~15:00
第 4 回	家族の強みと課題の評価～支援計画の立て方～	行田 智子	11 月 28 日(土)	15:00~17:00
第 5 回	子どもの成長発達と生活づくり	高橋由美子	12 月 5 日(土)	13:00~15:00
第 6 回	子どもと心を通わせるふれあい遊び	高橋由美子	12 月 5 日(土)	15:00~17:00
第 7 回	訪問の基本～ロールプレイ～	宇田公美子	12 月 12 日(土)	13:00~15:00
第 8 回	訪問の実際～よくある質問と支援の内容～	木村 里香	12 月 12 日(土)	15:00~17:00
第 9 回	実践を支える 5 つの戦略Ⅰ～聞き方の戦略～	坂 鏡 子	12 月 19 日(土)	13:00~15:00
第 10 回	実践を支える 5 つの戦略Ⅱ～問題解決の方法～	坂 鏡 子	12 月 19 日(土)	15:00~17:00

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大が危惧されておりますが、予防対策を十分に行ったうえで、講座を開催いたします。受講生の間隔を十分にとり実施するため、参加人数を 1 講座 6 名に限定させていただきます。また、第 3・4 回の講座は、県外講師であるため、Zoom での講義を予定しております。Zoom においては人数制限は致しません。

資料代 ➡ 全講座 10,000 円(1 講座 1,000 円×参加回数)
会 場 ➡ 浜松市福祉交流センター(浜松市中区成子町 140-8)
対象者 ➡ 看護師、助産師、保健師、保育士、教育関係者、行政職員、児童民生委員、子育て支援者、バイリンガルの方等
後 援 ➡ 浜松市
申込先 ➡ healthy.family.hamamatsu@gmail.com

問合せ ➡ NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ
TEL:053-488-4973(子ども支援センターはままつ)
090-4790-7719(久保田君枝)
FAX:053-488-4974(子ども支援センターはままつ)



WEB 申込 QR コード

養成講座の受講者募集チラシ(表)

◎ 講 師 紹 介

講師	所属
久保田 君枝	・聖隷クリストファー大学助産専攻科教授、本法人理事長
山名 れい子	・元浜松市保健師、子育て支援ボランティア、本法人家庭訪問員
行田 智子	・群馬県立県民健康科学大学看護学部教授
高橋 由美子	・元岐阜聖徳学園大学看護学部専任講師、本法人副理事長
宇田 公美子	・ルツ助産院、新生児訪問員、本法人理事、本法人家庭訪問員
木村 里香	・保健師、子育て支援ボランティア、本法人理事、本法人家庭訪問員
坂 鏡 子	・NPO 法人子育て支援を考える会 TOKOTOKO 理事長

◎浜松市福祉交流センターまでのアクセス

- 駐車台数に限りがあります(収容台数:78 台・1 回 200 円)。
- 徒歩でお越しになる場合、JR 浜松駅北口を左手に曲がり、
高架線路沿いに西南方向(豊橋方向)へ約 10 分。
- バスご利用の方は、駅北口バスターミナル 4 番乗り場
10 番:舞阪町内・弁天島温泉ゆき
12 番:高塚・馬郡ゆき / 16 番:法枝・小沢渡ゆき
「成子坂」下車 徒歩 3 分



===== 申 込 書 =====

■講座へのお申込みは FAX・TEL またはメールでお願いいたします。

Web からの申込みできます。

11 月分の講座は 11 月 1 日締切、また 12 月分の講座は 12 月 1 日に締切ります。

FAX 053-488-4974 **TEL** 053-488-4973

メールアドレス healthy.family.hamamatsu@gmail.com



WEB 申込 QR コード

ふりがな										
お名前										
TEL				メール アドレス						
国家資格の 有無	あり (資格名: _____) ・ 無									
希望講座	※希望講座に○を付けて下さい。 全講座 ・ 講座 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10									

※個人情報の利用について、皆様の個人情報は本事業における目的以外で利用しません。

養成講座の受講者募集チラシ（裏）

第2回

多職種連携に向けての交流会

— HFH(HEALTHY FAMILY はままつ)と
社会福祉の連携に向けて —

2020年

8月20日(木) 19:00-20:30

場所：聖隷クリストファー大学 1411教室

参加者：社会福祉関係者、HFH会員

スケジュール

19:00 開会あいさつ、交流会の趣旨説明 (久保田)

参加者の紹介 (久保田・大場)

15 事例紹介 (木村)

30 グループに分かれてディスカッション

20:00 発表、意見交換

15 まとめ (大場)

30 閉会、アンケート記載

第3回 多職種連携に向けての交流会

— HFH(HEALTHY FAMILY はままつ)と
地域保健師の連携に向けて —

日 時：2020年10月14日(水)19:00～20:50

場 所：聖隷クリストファー大学

参加者：地域保健師、社会福祉関係者、HFH会員

目的：多職種が連携して子育てを支援していくために、浜松市における子育て世代包括支援センターの現状を理解し、HFHの家庭訪問活動がどのように連携することができるか話し合う。

スケジュール

- 19:00 開会あいさつ、交流会の趣旨説明 (久保田)
参加者紹介
- 10 講義
「浜松市における子育て世代包括支援センターの現状」
浜松市健康増進課 仲谷美樹保健師
- 20:10 質疑応答、意見交換
- 40 まとめ (久保田)
- 50 閉会、アンケート記載

第4回 地域連携に向けての交流会

— 子どもと家族の生活を守る法律・仕組みを活用するために

日時
2021年5月25日（火）
18:30～20:00

場所
聖隷クリストファー大学
1602教室

参加者
HFH会員、
子どもと家族の支援に
関わる人

<目的>

子育て支援を必要としている対象者は、ひとり親家庭・経済的問題・言語理解の困難など様々な問題を抱えている。法律・制度を活用して、少しでも暮らしやすくなるように支援をしていくための方法を考える機会とする。

スケジュール

18:30 開会あいさつ、趣旨説明
講義

「子どもと家族の生活を守る法律の基礎知識」

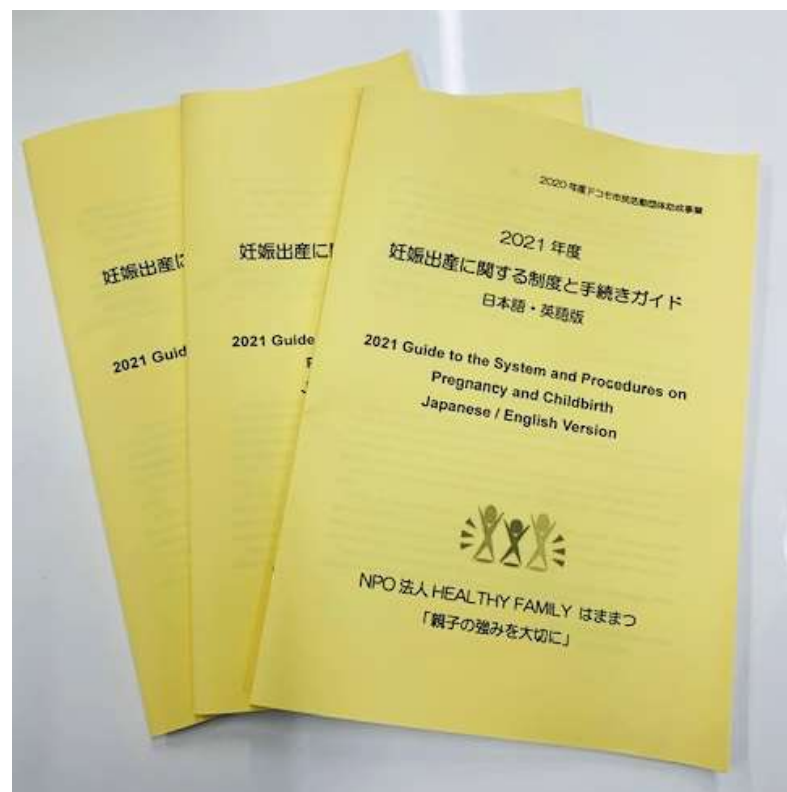
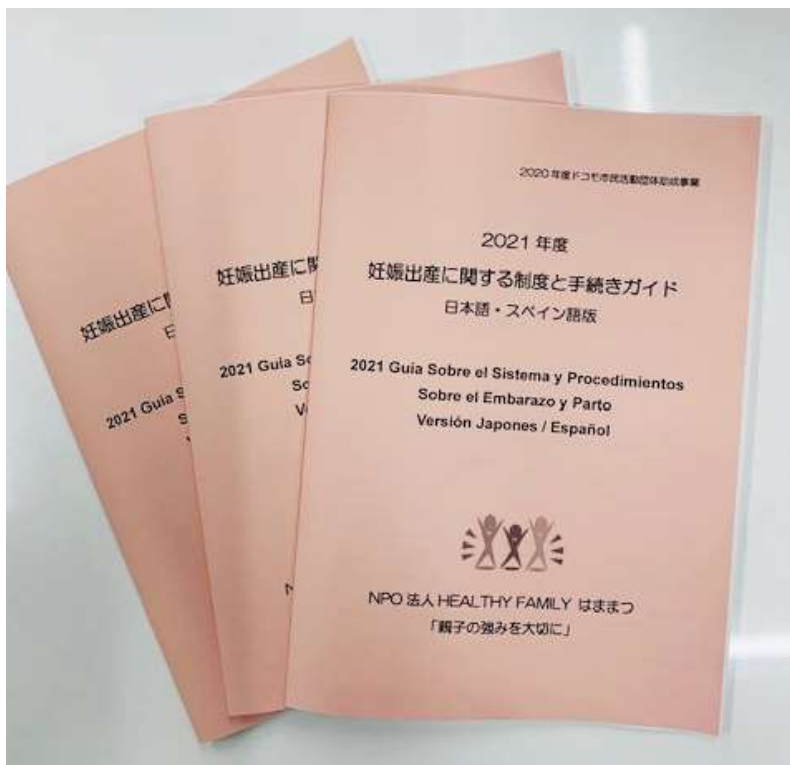
橋本 友紀子弁護士（小原総合法律事務所）

19:30 質疑応答、意見交換

まとめ

20:00 閉会、アンケート記載

翻訳冊子の表紙と目次をのせる



妊産婦自立 後押しさらに



かみばらまいか

浜松・遠州

「家族にも言えない悩みを聞いてくれた」。同市西区の会社員オン・ジャンネラさん(24)は、フィリピン出身のイサン・ジャレット君(2)を妊娠中の約3年前、H F Hの訪問支援を受けた。

悩みを抱える妊産婦に寄り添う浜松市の助産師らのボランティア「HEALTHY FAMILY(ヘルシー・ファミリー)はままつ」(H F H)が活動を強化している。任意団体からNPO法人に移行して組織基盤の強化を図る一方、福祉関係者との意見交換を通じて、より細かな課題への対応策も探る。親子の自立した生活に向け、約30人のメンバーが支援に励む。

訪問ボランティア(浜松)

NPO法人化、多職種と交流

オン・ジャンネラさん(左)に抱かれるイサン・ジャレット君をあやす久保田君枝さん。悩みを持つ妊産婦の話を耳を傾けてきた10月下旬、浜松市西区

(浜北支局・松浦直希)

深め、珠右は母親との関係も改善した。仕事と育児でシングルマザーとして大変な時もあるが、「子どもの幸せのために強くなりたい」と語る。

オンさんのような親子を支えてきたH F H理事長で、職歴クリストファー大助産学専攻科教授の久保田君枝さん(72)は「ほんの少し手を差し伸べるだけでも自立できる親子がたくさんいる」と活動の意義を強調する。

久保田さんは2013年、妊娠期からの虐待予防に取り組む米国団体の理念に共感し、H F Hを設立。病院などから紹介された妊産婦を、産後6カ月までをめぐりに定期訪問する。出産や育児への助言をする一方で相手の悩みごとにも耳を傾け、訪問後はメンバーで会議をして最適な支援方法を探る。訪問員の養成講座も続けてきた。

助産師や保健師、看護師といったメンバーが中心だが、視野を広げようと今年は社会福祉士らとの多職種交流会も複数開催した。

浜松市にも、妊婦健診などで必要と判断された母子には、家庭訪問や来所面談、電話相談といった支援が準備されている。久保田さんは行政との連携も視野に、「なかなか自分から助けを求められない人への支援方法などを考えたい」と話す。

2020
11/29
静岡新聞

本音インタビュー
NPO法人HEALTHY
FAMILY(ヘルシー・ファ
ミリー)はままつ 理事長
久保田 君枝氏

妊産婦訪問の 奉仕活動強化

悩みを抱える妊産婦への訪問ボランティアを行う団体を2013年に設立。今年はNPO法人への移行や多職種交流会の開催などで活動を強化した。親から子への虐待が深刻な問題になる中、活動への思いを聞いた。

―主な活動内容は。
「病院などから紹介を受けた女性を、妊娠6カ月ころから1年間を目安として月に1回訪問する。出

悩みを持つ母子支える

産への準備などを指導する一方で悩みを聞き、訪問後はメンバーで会議をして支援方針を話し合う。親子や家族の長所を認めて主体性を引き出すという方針で、助産師や看護師、幼稚園教諭ら約30人で活動している。今年は社会福祉士らと話し合う多職種交流会も開き、「よりきめ細かな支援ができないか探っている」。

―団体設立のきっかけは。
「大学の教員として助産師の育成に長年携わり、さまざまな母子に接してきた。母親になる女性たちの中には、悩みや問題があつたとしても、ほんの少し手を差し伸べれば自立でき、地域で安心して子育てできるようになるであろう人がたくさんいるという思いを強くした。そこで、米国で虐待予防の成功を取っている家庭訪問プログラムを学

び、その浜松版をつくった。団体の設立当初は助産師の仲間と教員で活動していたが、徐々に賛同者が増えた。活動の課題は。

「支援を受ける人はシングルマザーが多い。10代で母親になる人もいる。最近では外国人女性も増えていて、日本の出産に関する制度について分かりやすく説明することも大切な役割だと感じている。また、訪問を受ける女性は、親との関係がうまくいっていないところがある。親からは訪問すると言われ、継続的な支援を断られる場合もある。通い続けて打ち解けるように働きかけるが、たとえば中で支援が終わったとしても、少しでも母子の役に立てればと願っている」。

―今後の方針は。

「現在は浜松市内での活動が中心だ。ただ、私たちは家庭訪問員の育成講座も10回シリーズで開いていて、いずれは近隣の市町でも活動したいという人が出てくれるのを期待している。訪問はボランティアなので、活動資金を募るためにも、イベントの開催や協力者を増やすことも必要。母子への訪問支援は行政も行っているのでも、市との連携も見据えていきたい」。

(聞き手＝浜北支局・松浦直希)



くぼた・きみえ 2014年3月、浜松医科大学を定年退職。同4月から聖隷クリスミア大助産学専攻科特任教授。浜松市西区出身。72歳。



NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ
「親子の強みを大切に」

2020 年度ドコモ市民活動団体助成事業
NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ
妊娠期からの親子・家族の愛着形成と虐待予防のための家庭訪問活動 報告書
2021 年 8 月発行

発 行：NPO 法人 HEALTHY FAMILY はままつ

発行者：久保田君枝

連絡先：〒433-8125 浜松市中区泉 3 丁目 1-38 石川ビル 2 階

053-488-4973

W e b：www.hfh.jp

メール：healthy.family.hamamatsu@gmail.com